

熊本大学大学院法曹養成研究科
平成25年度第3期募集 法律科目試験問題

刑 法

平成25年1月27日（日） 10:00～12:00

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
2. 問題用紙は1枚、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚です。
3. 解答用紙には、熊本大学大学院法曹養成研究科の受験番号のみを記入し、氏名は記入しないで下さい。
4. 解答用紙は、正しい用紙に解答して下さい。
5. 解答は横書きにして、2枚の解答用紙（裏面も使用）に収めて下さい。解答用紙の追加・交換はしません。
6. 解答にはボールペンまたは鉛筆を使用して下さい。
7. 問題の内容に関する質問には応じません。
8. 貸与した六法に書き込みをしてはいけません。
9. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰って下さい。

【問題】以下の事例を読んで、問いに答えなさい。(配点：40点)

Xは、甲社の新商品開発を担当する企画部の部長代理であったが、仕事量及びその成果に比して給料が低いと感じていたことから、独立して新会社を設立しようと計画していた。しかし、新会社を設立するためには相当の資金が必要であると考えたXは、甲社の新商品の情報をライバル会社である乙社に売り、大金を得ようとするに至った。Xは、現在無職である親友のYに上記計画を打ち明け、Yを将来、新会社の従業員として雇う見返りとして、かかる計画に協力するよう依頼し、Yもこれを受諾した。

Xは、平成24年12月20日午前11時30分頃、甲社企画部内にある自己のデスク内に保管してあった、社外持ち出しが禁止されている、新商品に関する書類をファイルごと取り出し、人目がないことを確認して、企画部内の窓からそれを外へと投げ落とした。窓の外に待機していたYは、そのファイルを拾うと最寄りのコンビニへと行き、ファイルに収められていたすべての書類をコピーした。

同日午後12時10分頃、Yは、昼の休憩時間になって近くのカフェへとやって来たXと落ち合い、当該書類をファイルごとXに返却した。Xは、それを休憩時間終了直後に、自己のデスクへと戻した。

その後、Yは、Xに頼まれ、乙社の開発部の部長であるZに電話をした。Yは、Zに、上記コピーの入手方法を含めたすべての事情を説明した上で、当該コピーをXから購入するよう申し出た。Zは、甲社の情報が入手できるならばどんな不正な手段を使っても構わないと考え、その申し出を受けた。

翌日、ZはYを介してXに100万円を支払い、同じくYを介してXから上記コピーの交付を受けた。

以上の事実に基づいて、X、Y、Zの罪責について述べなさい。ただし、特別法について言及する必要はないものとする。

以上